

敬天千里眼 平成19年12月16日発行(随時)  
発行所 敬天新聞社  
〒335-0013  
埼玉県戸田市喜沢町丁目二十八番の四十三  
TEL 048-229-0007  
FAX 048-242-5858

# 敬天千里眼

## 長崎を食物にする谷川弥一

### 地元を食い荒らす国会議員を許すべからず！

#### 長崎選出の土方議員を御存知か

長崎県三区選出の国会議員で谷川弥一という男がいる。県議を二十年やってそこから国会へ出て現在二期目である。全国的にはまだ無名だが、長崎では何せ悪名が轟いている。

典型的な土方な男で、県議になる切欠も政治家にならなければ大きな仕事が取れない、というのが元々の発想ぐらいたから、こんな男に政治の期待をするのも無理な話だが、それでも格が上がって行くに従って「地位が人を作る」という言葉がある位、それなりに品格を備えていくものであるが、この男の場合、一切関係ない。

自分の会社が仕事を取る事だけしか考えていない。普通、県会議長から国会議員と上がれば少しは遠慮したり、仲間に分け与えたり、とかするもんだけど、この男の場合逆で、そのド厚かましきは益々酷くなり、ここまで明らかに政治を商売にしている男も珍しい。日本広しと言えども、このド厚かましきは断トツの国会議員ナンバーワンと言ってよからう。

国民のことは勿論のこと、県民のことも果ては地域のことでさえ、全くといっていい程考えるような男ではない。三流土建屋でしかなかった谷川建設が自分の出世と共に伸び続け、政治家として力をつけてからは、毎年トップを走り続けている。

悪徳知事とタッグ組んで大躍進 特に三年前、息子喜一郎が金子原一知事の娘と結婚してからというもの、その売上げは飛躍的に伸びているのだ。この会社の不思議なところは公共落札はせいぜい数十億足らずの仕事しか取っていない筈なのに、売上げはその数倍の二百億を超えてる不可思議さである。どんなカラクリになっているのだろう。

例えば、大きな工事は直接取れないが、ゼネコンの裏に付く(いわゆる下請け)。長崎で知事が、或いは県の行政が「地元をよろしく」と言った場合、頼まれたゼネコンは「谷川建設を宜しく」と聞かせるらしい。本当は落札したゼネコンは融通の効く自前下請けを使いたいのが本意である。金子知事の娘を貰う時、知事の娘は広域暴行団幹部と付き合っていた。その整理をするのに三億円払った、との噂があるのだが、こんなケチ男が自分の身銭を切る訳がない。恐らく国か県の金か、その暴力団に流れるようなシステムを作ったのではないか。金子県政になってから日本一貧乏県に成り下がった長崎

#### 谷川・金子が絡む不正融資疑惑

県は何か長崎県に縁もゆかりもないチャペルコナツツという名でラブホテルチェーン店を経営していた加藤プレジャーという会社に、倒産したルネッサンス伊王島の再建という名目で五億数千万円を出した。議会承認案件の為、この不自然さを民主党を始め野党は追及したが、与党に押し切られた。この時、知事本人は谷川弥一に押し切られた。この時の県議会議長は谷川弥一だった。

長崎県の地方自治体は五〇〇〇万円でも一億円でも喉から手が出る程欲しい過疎債である。ところが加藤プレジャー関係者は融資された中から三億円を戻したと証言しているのである。それを誰が分けたのか。必ず暴和銀行が四〇%という配分だったらしいが、金子

#### 長崎沈没の前に徹底糾弾するぞ

確かに金子知事が当選前の県の公金扱い高は、十八銀行が六〇%親和銀行が四〇%という配分だったらしいが、金子